

1 学校教育目標

- 1 礼儀を重んじ他を思いやる生徒（徳）
- 1 自ら考え創造する生徒（知）
- 1 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒（体）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指し自信と誇りをもって教える学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自己に厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 <学校の現状>

コロナ禍においてなかなか実施できなかった学校や学年の行事を規模を縮小したが開催し、生徒が熱心に取り組むことができた。一部生徒の問題行動が見られたが全体的には落ち着いて学校生活を送っていた。

生徒アンケート結果「学校が楽しい」と回答した生徒が97%、保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」に89%が肯定的回答であった。

2 <成果と課題>

- ・ICTリーダーを中心とした研修を実施し活用が少しずつ進んできた。足立スタンダードの授業をさらに定着させていきたい。
- ・長期休業中のAIドリルの活用が進んだ。日常の家庭学習においても促進し、更なる学力の定着と向上につなげていきたい。
- ・コロナ禍で縮小して実施せざるを得ない学校行事であったが充実していた。この経験を活かして、今後の行事の在り方を検討していきたい。

3 <健全育成>

生徒のアンケート「六月中での生活は楽しい」と回答している生徒は97%、保護者アンケート「いじめのない生活を送っている」93%と高い数値であった。反面、年間30日以上欠席生徒が11%ほど存在している。校内委員会の在り方を見直し生徒の将来を見据えた支援を行っていけるようにする。

学校運営協議会設置校として地域の教育力を生かした教育活動を小学校との連携を図りながら継続、発展させていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	
2	キャリア教育の推進			○	○	
3	心の教育の充実	○	○	○	○	

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
主体的・対話的で深い学びの実現と学力の向上と定着		到達度確認テスト 正答率学校全体 60% 令和6年度 区調査 通過率学校全体 65%	到達度確認テスト 正答率学校全体 55.8%		国・数・英共に基本的な内容の定着を図るさらなる努力が必要である。			△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業力の向上	全教員 全教科	通年	<p>○管理職による授業観察年3回(小中連携研究授業、成果発表授業等含む)実施。</p> <p>○小中連携による授業研究、協議会(年7回) ・指導案検討→研究授業→研究協議を3校で実施</p> <p>○授業改善及び評価・評定に関する校内研修の実施。</p> <p>○都・区の研修参加後の還元研修の実施</p>	<p>○年度末到達度確認テストによる検証</p> <p>○令和6年度区学力調査による検証</p> <p>○生徒アンケートによる検証</p> <p>○保護者アンケートによる検証</p>	<p>○年度末到達度確認テストの正答率各学年60%以上</p> <p>○令和6年度区調査通過率学校全体65%以上</p> <p>○生徒の授業アンケート肯定的回答90%</p> <p>○保護者学校評価アンケート「理解できていない」5%以下</p>	<p>○年度末到達度確認テスト 正答率学校全体55.8%</p> <p>○生徒授業アンケート肯定的解答78%</p> <p>○保護者アンケート「理解できていない」7%</p>	<p>・管理職による授業観察と協議を行った。学習指導案の作成及び評価について指導した。</p> <p>・小中連携研修は年間7回実施した。六月中研究授業は国・社・体・家で講師を招聘して行った。</p> <p>・評価・評定について確認を行ったが毎年行う必要がある。</p>	△
2 継続	ICT機器の有効活用	全生徒 全教員 全教科	通年	<p>○校内ICT委員会を立ち上げ</p> <p>○ICT端末の有効活用</p> <p>○デジタル教科書の活用</p> <p>○AIドリルの計画的活用 ・授業開始時、終了時 ・家庭学習</p>	<p>○管理職による授業観察</p> <p>○生徒授業アンケート</p>	<p>○教員用タブレットを活用して授業を行った教員が100%</p> <p>○生徒授業アンケートで有効に活用されたとする肯定的回答80%以上</p>	<p>○授業でタブレットを使った教員100%</p> <p>○生徒アンケート「授業でタブレットを使用して学習を深めている」86%</p>	<p>・ICT委員会を立ち上げ、年間3回の研修を実施した。(キュービナ、ジャムボード、カフト、等)</p> <p>・全学年でキュービナを効果的に活用できるようになった。</p>	○

3 新規	読解力の向上	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・週4朝10分間の読書時間を新設 ○新聞の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・お薦め記事の紹介 	区学力調査 (国語観点別)	<ul style="list-style-type: none"> ○取組状況 ○読む力の前年比UP 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書を全学年で実施 ○生徒アンケート「朝読書に集中して取り組み、読み取る力を深めている」77% 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館オリエンテーションの実施は遅れたが全学年行った。 	○
4 継続	基礎学力の定着	全学年	通年 夏季休業日	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後補充教室の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・5教科25分×週4回 ・区調査正答率40%未・定期テストC層生徒対象 ○5教科小テストの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語を中心とした5教科 ○サマースクール <ul style="list-style-type: none"> ・全教員体制 7日間 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度末到達度確認テスト ○令和6年度区学力調査 ○小テストの実施回数・正答率 	<ul style="list-style-type: none"> ○到達度確認テスト正答率60% ○実施回数3～5回 正答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度末到達度確認テスト 正答率学校全体55.8% ○小テスト(コンテスト) 1年:国数英 2年:国社数理英 3年:国社数理英 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後補充教室は区学力調査の結果を基にした一部生徒対象とESAT-J対策学習等の全生徒対象を行った。 ・サマースクールは全学年7日間実施した。(1年は6日間の勉強合宿を含む) 	○
5 継続	家庭学習の充実	国語 数学 英語 社会 理科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルの計画的活用 ・家庭学習ノートの提出 ・自ら課題を設定できない生徒へ課題の提供 ・ICT端末での課題の提供と回収 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度末到達度確認テスト ○生徒家庭学習アンケートによる検証 ○保護者家庭学習アンケートによる検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○到達度確認テスト正答率60% ○区調査「平日にほとんど勉強しない」12%以下 ○生徒アンケート「タブレットを使って家庭学習している」肯定的回答90%以上 保護者アンケート70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○到達度確認テスト 正答率学校全体55.8% ○区調査「平日ほとんど勉強…」18.1% ○生徒アンケート「宿題以外にも家庭学習をしている」68% ○保護者アンケート「子どもはタブレットを使って家庭学習をしている」45% 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習は学年によってAIドリルや家庭学習ノートを活用して行かせた。教員が点検することで大方の生徒がよく行っているが、全く取り組めていない生徒の対策が十分にできていない。 	△

重点的な取組事項－２		キャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己に自信を持ち、将来の夢や目標に向けて努力する生徒の育成		区学力調査の意識調査 「自分の将来の夢や目標の実現に向かって努力したり、その方法を工夫・改善したりしている」65%以上 生徒アンケート 「自分の将来に夢や希望をもっている」75%以上	区調査の意識調査 「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている」84.8% 生徒アンケート 「自分の将来に夢や希望をもっている」71%以上	3年生の校長面接で将来の夢や就きたい仕事について明言できる生徒が増えてきた。次年度はさらに将来の生き方を見つめることができる機会をもたせる。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
計画的なキャリア教育の実施	区学力調査の意識調査 「将来の夢や目標を持っている」70%以上 生徒アンケート 「なりたい職業や興味をもっている職業がある」75%以上	○3年間を見通したキャリア教育の計画の作成 ○キャリア計画に基づいた各学年での教育活動の企画・運営	・区調査「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」88.7% ・生徒アンケート 「なりたい職業や興味をもっている職業がある」69%以上	各学年で職業調べや職場体験、上級学校調べ等といっしょに「夢デザインシート」に取り組めた。	○
コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長	・区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」60%以上 ・「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」60%	・全校で読解力向上活動に積極的に取り組む ・生徒朝礼の充実(発表場面の設定)	・区調査「授業の時間に…」で45,7% ・区調査「自分の意見…」で63.0% ⇒1月実施64.8%	・生徒会朝礼で生徒会や各委員会の代表の発表場面が増えた。 ・朝読書をベースに3年生がビブリオバトルを実施し、代表生徒が文化祭で発表した。	○
地域の力を活かした活動	・区調査「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる」60%以上	・開かれた学校づくり協議会委員と全教員による3年生の面接練習の実施 ・開かれた学校づくり協議会委員等による講話	・区調査「自分の意見…」で63.0%	・12/18に開かれた学校づくり協議会委員の協力を得て3年生の一斉面接練習を実施した。 ・興和は3月に予定	◎

地域貢献活動	関係地域で行われる行事に生徒ボランティア参加	地域関係者との交流や地域に貢献する意欲の向上。 ・地域清掃ボランティア ・六月中ふれあいいいききサロン	・地域清掃や夏祭り等の地域貢献活動が昨年以上に活発化し、多くの生徒がボランティアとして参加した。	○
--------	------------------------	---	--	---

重点的な取組事項－3	心の教育の充実
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の自尊感情・自己肯定感の向上	区調査「自分にはよいところがあると思う」65%以上 生徒・保護者アンケートによる数値の向上	区調査「自分にはよいところ…」61.7%	○今年度初めて実施したエール週間を充実させて自他の良いところを認め合えるようにする。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○学級活動の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「信頼できる友人がいる」「先生たちは悩みや心配に耳を傾けてくれる」90%以上 ・Web-QU 調査 学校生活満足群 45%以上 学級生活不満足群 15%以下 ・自己肯定感の調査で、肯定的評価の生徒「自分には良いところがある」の数値向上 学校全体 65%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じたやりとり帳の点検とコメントしての返却 ・学級開きや席替え時の構成的グループ・エンカウターの実施 ・Web-QU 調査年間2回実施 研修会において結果の検証及び対応の検討 ・生徒会本部役員と専門委員による自治活動の活性化 ・道徳授業地区公開講座の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「信頼できる…」で96%「先生たちは悩みや…」で90% ・年度当初に全クラスで互いを認め合うための活動を導入した。 ・Web-QU 調査で学校生活満足群45%以上(全国平均41%)の学級69.2% 不満足群 15%以下(全国平均18%)の学級が30.8% ・区調査「自分には良いところ…」61.7% ・エール週間として、先生が生徒の、生徒が生徒の良いところを見つける活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年でやりとり帳の取組ができた。 ・年度当初に全クラスで互いを認め合うための活動を導入した。 ・Web-QU 研修会を実施した。結果を効果的に学級経営に生かすためにさらに細部にわたる研修が必要である。 	◎

○いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート実施（年3回）集計評価 ・生徒アンケート「他の人を尊重し、いじめのない生活を送っている」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会「いじめ根絶」活動の実施 ・セーフティ教室等で SNS の適切な利用について学習 ・SOS 出し方教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施 ・生徒アンケート「他の人を尊重し…」97% 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS の適切な利用について、朝礼や学級で繰り返し学習の場を設けた。学びが実際の生活に活かされていない。 	○
○不登校生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子供は六月中の生活に満足している」90%以上 ・不登校生徒の登校支援をすすめる継続的な関係づくりと定期面接の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学支援委員会を年間35回以上実施 ・SSW・SCの活用 ・関係機関との連携 ・SSRの組織的な運営と登校支援を図るスタッフ会議の開催（年間3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子供は六月中の生活…」92% ・不登校14.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省のCocoloプランの考え方に従い区教委の指導の下でSSRの改善中である、 	○

6 まとめ

（1）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。通常の形態で実施できるようになった学校や学年行事に3年生が中心になり熱心に取り組み中学校のよい思い出を作ることができている。
- ・ICT委員会が中心になり授業で活用するための研修が進んだ。授業における生徒のタブレット活用が多くみられるようになってきた。活用が増えることでタブレットの破損や紛失が見られるようになってきたので家庭の協力も仰ぎながら大切に使うことを指導していきたい。
- ・上級学校調べや職場体験など進路学習が実施できるようになってきた。体験活動をもとにして生徒一人一人が将来の生き方をさらに考えられるようにキャリア教育を進めていき、目標をもって学習に取り組めるようにする。

（2）保護者や地域へのメッセージ

今年度も感染症対策を施しながらの授業や行事の公開となった中で常にご支援やご協力をいただき感謝しております。生徒が学んだことを自分の将来に活かすことができるように、すべての教育活動をキャリア教育の視点で検討し取捨選択して進めてまいります。次年度は行事と合わせて授業もご覧いただくようにいたします。

（3）その他（学校教育活動全般について）

本校は人懐っこく優しい生徒が多く、授業や行事、部活動に熱心に取り組んでいます。今後は、自分の生き方を見つめるキャリア教育を進めるとともにICT機器を効果的に活用した学力向上に取り組み生徒が自信をもって次のステップに歩みだせるようにしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。